

平成26年度 沖縄離島体験交流促進事業

沖縄県旅行・観光事業協同組合 株式会社カルティベート 共同企業体

背景・現状

- 沖縄21世紀ビジョンにおいて、離島地域の住民負担を『沖縄の心である「ユイマール精神」に基づき、県民全体で支え合う新たな仕組みを構築していく。』と謳っているが、現状として、沖縄本島地域の住民の離島地域への関心は低い状況にある。
- これまで県においては、離島地域における体験プログラムの作成や、体験・滞在施設の整備等を支援してきたが、今後はこれらの資源や民泊の取組等を有効に活用し、離島地域の活性化を図る必要がある。

今年度の課題

- 本事業は今年度で5年目を迎え、受入れ離島数、派遣学校数・児童生徒数ともに増加している。そのため、今後は『命を預かる』という認識を強め、各島の事情に照らし合わせた安心安全の対策を構築する必要がある。
- 現在、県内各地において民泊業者が急増しているが、民泊を行う際には、「簡易宿所免許」を取得しなければならないという認識を広め、取得に向けたサポートを行なっていく必要がある。

事業概要

将来を担う児童生徒が、離島の重要性、特殊性及び魅力に対する認識を深めるとともに、沖縄本島と離島との交流促進により、離島地域の活性化を図ることを目的として、沖縄本島の児童生徒を離島に派遣し、地域の人々や地元小学生との交流のもと、体験学習や民泊等を実施する。

期待される効果

- ①離島地域の文化、環境及び産業を活かした新たな体験学習の場の構築
- ②児童生徒において離島の重要性、特殊性及び魅力への理解が深まる
- ③児童生徒の豊かな人間性や社会性の形成
- ④本島と離島との交流促進
- ⑤離島観光の振興

内容

- 1)参加学校
沖縄本島内の
51小・中学校の児童生徒
(117クラス、3,504人)
- 2)派遣先離島市町村
伊是名村、伊平屋村、伊江村、渡嘉敷村、座間味村、渡名喜村、粟国村、久米島町、宮古島市、多良間村、竹富町、南大東村、石垣市、与那国町、北大東村、うるま市(16市町村・18離島)
- 3)期間
平成26年6月～7月
及び9～12月
- 4)費用負担
本事業にかかる費用は、旅行保険と昼食代以外は沖縄県の負担

事業スキーム

沖縄県
企画部 地域・離島課

沖縄県旅行・観光事業協同組合、株式会社カルティバイト共同企業体
業務統括: 開(比嘉)梨香
事務局長: 池原和也

ロジスティック
沖縄県旅行・観光事業協同組合

- ・日程調整(荒天時対策含む)
- ・旅行手配
- ・派遣学校との調整
- ・参加者情報の集約・書類作成
- ・保護者説明会の実施
- ・実施当日の添乗

国際旅行社

エアー沖縄

沖縄ツーリスト

地域・学習サポート
株式会社カルティバイト

- ・プログラムの新規造成・質の向上
- ・コーディネーター・ガイドの育成
- ・民泊受入態勢の強化
- ・危機管理体制の構築
- ・オリエンテーションの実施
- ・交流会企画・運営の支援

アーストリップ

がじゅまる
自然学校

SevenSeas
宮古島

県内各離島、本島内小中学校

本事業にファシリテーターがいる意義とは・・・？

①子ども達への効果

- ・学校側が目指す学びに沿った、ストーリー化された体験型プログラムデザインができる。
- ・体験プログラムに、より学びや気づきを促進する仕組みを取り入れることができる。
- ・これまでの蓄積から、派遣学校側へのアドバイザー的役割を担うことができる。

②受入れ離島への効果

- ・携わる人々(受入れ離島、派遣学校側等)の視点をつなぎ調整することで、双方にとってよりよい場をつくり出す。
- ・より深い学びや気づきを促進する体験プログラム開発などにアドバイザーとして携わることができる。
- ・派遣する子どもだけでなく、受入れ地域の子ども達への学習効果にも目を配ることができる。

～毎年、受入れ離島側と取り組む5つのチャレンジ～

毎年、受入れ離島の方々と一緒に、様々なチャレンジをしている本事業。毎年、必ず取り組んでいることをご紹介します！

チャレンジ1. 受入れ体制の強化

本事業での受入れを通して、島内での体制を強化し、今後の修学旅行や学習旅行の誘致に活かせるよう支援します。子どもの命を預かるからこそ、受入れ離島側とは真剣な話し合いを何度も重ねます。

チャレンジ2. 新しい体験プログラム作り

学習旅行の誘致に活かせるよう、受入れ離島側と一緒に、各島の特色に合わせた新たな体験プログラムを作ります。特に力を入れているのは、季節ごとにできる一次産業体験プログラム。各離島の生計を支える一次産業を体験させることで、離島の特殊性・魅力に対する理解を促進します。H24年度に座間味島（今帰仁村立天底小学校派遣）で実施した「島人まるごと交流体験」も、H24年度の本事業で新しく開発した体験プログラムのひとつです。今帰仁の子どもたちが、島育ち島生まれ5人の大人と一緒に座間味島ならではの生活・仕事・遊びを体験しました。

チャレンジ3. 既存の体験プログラムの質向上

すでに既存のプログラムが多くある受入れ離島の場合、既存のプログラムの質向上を目指します。

例えばH24年度の伊是名島（豊見城市立豊崎小学校）では、児童が「新聞記者」として既存の体験プログラムに参加。事前に、伊是名島で記事にしたいこと・聞きたいことをまとめたうえで、当日に臨みました。伊是名島伝統のワダ漁やサトウキビの植え付け体験を通して、児童はそれぞれ個性のある新聞記事を作成しました。

チャレンジ4. コーディネーターやガイドの養成

毎年、幅広い組織・人材に本事業へ関わってもらうことにより、受入れ離島側の人材育成を図っています。

チャレンジ5. 受入れ離島側の児童・生徒の学び促進

全ての受入れ離島で、本島の児童生徒と離島の児童生徒が互いに刺激を受けあうような学校交流を行っています。

島によって、学校交流の内容はさまざま。何度も話し合いを重ね、より互いの児童生徒の学びを促進するような学校交流を企画しています。H24年度の宮古地区（東風平小学校派遣）では、宮古島市立狩俣小学校の児童が宮古島の言葉で、東風平小学校児童に宮古島ガイドを行いました。

本事業を通して、離島児童生徒が本島に進学する際の友人づくりの練習や自信につながる経験ができるよう、積極的に取り組んで参ります。



派遣学校側への保護者説明会



民泊の話で熱く盛り上がる（渡嘉敷島）



派遣学校側との話し合い（今帰仁村）



離島学校側との話し合い（石垣島）

	派遣小中学校	ロジスティック	地域・学習サポート	受入離島
7ヶ月～2ヶ月前	学校へ事業説明 ・名簿提出 ・班グループ、部屋割 ・プログラムの要望 ・保護者同意書提出 ・保険証コピー提出 ・交流会出し物用意 など	キックオフミーティング 担当学校挨拶、名簿受取 全体会議日程調整 ・ファシリテーターと学校と連絡を取り全体会議日程を調整する ・情報共有シート、スケジュール管理表を記入する		
		第1回事前調整 離島の受入体制、プログラム案等を調整		
			・事業意義、現況の説明 ・島の現状確認 ・可能メニューの洗い出し（自然体験・歴史文化体験・農業体験など） ・小学生同士の交流方法の検討（場所・時間・内容など） ・受入主体組織や窓口の確認 ・安全対策の検討 ・2泊3日のプログラム構成の検討	・プログラム作成 ・受入離島学校選定・調整 ・プログラム料金見積
		学校関係者との会議 島の状況やプログラムの共有、現地下見・保護者説明会・オリエンテーションの日程調整、しおり内容の確認、学校保険準備		
2ヶ月前～1ヶ月前		第2・3回事前調整及び学校担当教員の現地下見 ・当日プログラム案についての説明（場所・時間・内容など） ・当日の準備物、人員配置、安全体制の確認・当日危惧される部分の洗い出し（雨天時、問題発生時など） ・受入統括現地コーディネーターと当日の流れや成果目標の確認・事前オリエンテーションの確認（内容、準備物等） ・体験プログラム、受入れ体制、安全確認などの最終確認		
3週間前～2週間前	同意書、保険証コピーの準備 アレルギー確認	本番手配		緊急連絡体制図作成
		保護者向け説明会 実施1ヶ月前後		
		しおり・名札・荷札作成		
		オリエンテーション 実施1～2週間前		
		航空券類発券		
1週間前		・最終人数を確認後発券依頼 ・欠航保険加入 ・バスファイナル確認 ・担当看護師連絡		
	出発準備			
	・航空券・手持金・救急箱・成果物 ・日程表、手配関係等資料	添乗員ミーティング		
	実施本番 2泊3日			
帰着1週間	事後振返	精算	成果物管理	
		報告書・手配書作成		
	事業評価会議			

平成26年度 沖縄離島体験交流促進事業派遣計画(案)

・・・土・日・祝日

ファシリ調整の可能性あり
マッチング途中

※ロジ会社名表記
ITS＝国際旅行社
AOK＝エアー沖縄
OTS＝沖縄ツーリスト

カレンダー			No	派遣予定日	市町村	学校名	派遣クラス数	人数	受入市町村	ファシリ	メインロジ
6月	16日	(月)	1	6/18 ~ 6/20		久辺小	1クラス	23	うるま市	中村(圭)	AOK:古堅
	17日	(火)	2	6/18 ~ 6/20		アミークス学園	2クラス	50	久米島町	小林	AOK:幸喜
	18日	(水)	3	6/18 ~ 6/20		東江小	3クラス	80	宮古島市(池間)	春川	ITS:仲村
	19日	(木)	4	6/18 ~ 6/20		西崎小	3クラス	101	宮古島市(伊良部)	後藤	ITS:渡口
	20日	(金)									
	21日	(土)									
	22日	(日)									
	23日	(月)	5	6/25 ~ 6/27		今帰仁小	2クラス	48	伊平屋村	中村(圭)	ITS:上地
	24日	(火)									
	25日	(水)									
	26日	(木)									
	27日	(金)									
	28日	(土)									
	29日	(日)									
	30日	(月)									
7月	1日	(火)	6	6/25 ~ 6/27		高嶺小	2クラス	57	伊是名村	平良	AOK:出盛
	2日	(水)	7	6/25 ~ 6/27		大里中	5クラス	170	伊江村	小林	AOK:仲里
	3日	(木)	8	7/2 ~ 7/4		坂田小	4クラス	148	伊江村	小林	AOK:仲里
	4日	(金)	9	7/2 ~ 7/4		屋我地中	1クラス	6	渡名喜村	尾崎	ITS:井上
	5日	(土)	10	7/2 ~ 7/4		翔南小	3クラス	84	渡嘉敷村	後藤	OTS
	6日	(日)	11	7/2 ~ 7/4		船越小	2クラス	43	宮古島市(城辺)	中村(圭)	ITS:諸見里
	7日	(月)	12	7/2 ~ 7/4		喜屋武小	1クラス	20	多良間村	宮城智美	AOK:幸喜
	8日	(火)	13	7/9 ~ 7/11		本部小	2クラス	73	伊平屋村	中村(圭)	ITS:上地
	9日	(水)	14	7/9 ~ 7/11		田場小	4クラス	141	伊是名村	小林	AOK:出盛
	10日	(木)	15	7/9 ~ 7/11		曙小	2クラス	53	粟国村	平良	AOK:當間
	11日	(金)	16	7/9 ~ 7/11		中の町小	2クラス	71	渡嘉敷村	宮城智美	OTS
	12日	(土)	17	9/3 ~ 9/5		嘉手納小	3クラス	101	座間味島	小林	ITS:諸見里
	13日	(日)									
9月	14日	(月)	18	9/3 ~ 9/5		高良小	4クラス	144	渡嘉敷村	後藤	OTS
	15日	(火)	19	9/10 ~ 9/12		南原小	2クラス	45	伊平屋村	中村	ITS:上地
	16日	(水)	20	9/10 ~ 9/12		玉城小	2クラス	50	久米島町	小林	AOK:幸喜
	17日	(木)	21	9/10 ~ 9/12		緑風学園	1クラス	18	北大東村	尾崎	ITS:井上
	18日	(金)	22	9/10 ~ 9/12		真壁小	1クラス	20	南大東村	後藤	AOK:仲里
	19日	(土)	23	9/17 ~ 9/19		屋我地小	3クラス	34	伊是名村	小林	AOK:出盛
	20日	(日)	24			真喜屋小					
	21日	(月)	25			瀬喜田小					
	22日	(火)	26	9/17 ~ 9/19		与那城小	3クラス	112	宮古島市(池間)	春川	ITS:仲村
	23日	(水)	27	9/17 ~ 9/19		城西小	3クラス	111	宮古島市(城辺)	中村	ITS:諸見里
	24日	(木)	28	9/24 ~ 9/26		上本部小	1クラス	27	渡名喜村	尾崎	ITS:井上
	25日	(金)									
	26日	(土)									
	27日	(日)									
	28日	(月)									
	29日	(火)									
	30日	(水)									

51校117クラス3,504人の児童生徒が16市町村 18離島に派遣されます！

実際に行われた離島体験の一例

渡嘉敷島～5年ぶりに「どろんピック」を開催！～

実施日：H24年6月20日～22日 屋部小学校（児童59名）派遣



昨年度実施の様子①

渡嘉敷島のスイカを食べたよ！冷た～い！

全校生徒18人の渡嘉敷小学校が、名護市の屋部小学校の児童59名と交流しました。

一番のニュースは5年ぶりに復活した「どろんピック」。

かつては毎年開催されていたイベントですが、過疎化による生徒数の減少や水不足などにより、ここ数年は途絶えていました。

本島から多くの小学生が来ることをきっかけに再び実施され、当日は、田んぼの中で泥だらけになった子どもたちの笑い声が集落内に響き渡りました。



昨年度実施の様子②

渡嘉敷島で稲を刈ったよ～☆初めての体験！

2日目には、真っ青な渡嘉敷島の海で追い込み漁に挑戦。

どんな魚が捕れるのかウキウキしていた子どもたちの期待に反して、網にかかった亀が暴れてしまったことで、子どもたちは、ほとんど釣れず仕舞い。

ところが、残念がる子どもたちを喜ばせようと、大人たちが一致団結し、密かに漁へ。島の方々が何度か網を仕掛けて魚を捕ってきてくれた喜びを感想に書いた児童もいたほど、嬉しいサプライズだったようです。

続いては、釣れた魚で夕食づくり体験。

魚に触ること自体が初めての子どもたちが多く、民家さんから魚の種類や捌き方、料理の仕方などを教えてもらいました。



昨年度実施の様子③

渡嘉敷小学校の子どもたちと、太鼓で交流♪

渡嘉敷島では今回が初めての民泊だったため、最初は緊張していた民家さんも、子どもたちに島のくらしや仕事を教える中ですぐに打ち解け、受入れの喜びを味わうことができたようです。

最終日に子どもたちが民家さんにプレゼントしたメッセージボードには、いくつもの「また来るね！」という言葉が綴られていました。

～H23年度 参加者の声①～

H23年度は、8小学校の児童(19クラス)558名が12市町村に派遣されました。

H23年度に本事業を経験した本島児童、そして先生方の声を集めてみました。



初めてのヨット体験にワクワク(座間味島)



島の大人にカニの捕まえ方を習う(渡名喜島)



島のお父さん・お母さんと料理をつくる(伊江島)



お別れ。また、会いにくるからね(伊平屋島)

参加した本島児童の声

●粟国島では、星空観察で流れ星が見られて、とてもよかったし、粟国島では、信号が一つしかなかった事がとても、すごかったです。
(名護市立大北小学校5年生／粟国村派遣)

●とっても楽しくてタゴはんもおいしくて尚円太鼓交流もよかったし、最後もとっても泣くくらいでした。
(那覇市立城北小学校5年生／伊是名村派遣)

●なはとの違いや、ビックリすることがたくさんあってビックリした。
(那覇市立城北小学校5年生／伊江村派遣)

●池間にいる人は、みんなやさしくて、みんな心が広い人たちだったので、また、ぜひいきたい。池間中のももせねえちゃんと、みんぱくの人には、おせわになりました。
(糸満市立南小学校5年生／宮古島市派遣)

●イリオモテヤマネコの足あとをはじめて見てふつうのネコと何が違うのかが気になりました。
(豊見城市立座安小学校5年生／竹富町派遣)

●ぼくは、はじめて見るヤシガニのはさみの力がどれくらいわかりました。一番は、渡名喜島の自然やいいところが分かったので、いい思い出になりました。魚を追いつんだり、本島ではない海上運動会も楽しかったです。
(うるま市立具志川小学校5年生／渡名喜島派遣)

参加した本島先生方の声

●子どもたちともども、一生の思い出に残る体験をさせていただきました。今でもアンケートをとると五年生で一番楽しい思い出として離島体験を挙げてくれています。その後、夏休みに西表島に家族で旅行に行った児童もいました。このようなことから、この交流促進事業の目的は達成されているように思います。これからもこの素晴らしい取り組みを続けていってほしいと思います。ありがとうございました。
(豊見城市立座安小学校5年生担任／西表島東部派遣)

●本事業を進めるにあたり、たくさんのスタッフの協力のもと有意義に過ごしました。池間島でしか観ることができないオオガニの産卵や、海ガメの産卵など自然と向き合うことができました。時には迷惑をかける場面もありましたが、いつでも笑顔で対応してくれたので本当に感謝しています。今後も本事業を開催し、本島に住む子どもたちに離島のすばらしさを教えていただきたいと思います。帰りのバスの中では、学級みんなが感謝感激のあまり涙を流すこともありました。本島に有意義な体験・体感ありがとうございました(糸満市立南小学校5年生担任／宮古島市派遣)

●このような機会があることを、多くの教員は知らない。予算面のクリアが可能なら、もっと多くの学校が参加できるようにしたらよいと思いました。渡名喜島の方々、旅行社の方々、サポートしていただいた方々に本当に感謝しています。マイナス面は何もないくらい良い経験をさせていただきました。
(うるま市立具志川小学校5年生担任／渡名喜島派遣)

～H23度 参加者の声②～

離島の方々は、何度も何度も事業スタッフと会議を重ねて本島児童を受け入れます。

H23年度に本島児童を受入れた離島のみなさんの声を集めてみました。

受け入れ離島の方々の声



事前調査会議。ときには4時間にも(宮古島)



離島の学校を訪ねて、参加を依頼(西表島)



こころのこもった島の方々の見送り(伊平屋島)



派遣児童が送った色紙は島の宝物(渡名喜島)

●小規模離島の子どもたちが、他校との交流を通して、切磋琢磨する機会になったことで実り多い交流会になった。また、PTAが積極的に関わり、PTAの団結が生まれた。(久米島)

●受け入れのノウハウが勉強できたことが一番良かったです。それを機に次年度は体験プログラムの幅を広げられるよう見直したいと思います。(伊平屋島)

●「持続可能な観光」で「島の活性化」を目指す事業が始まったばかりだったので、とてもためになる経験をさせていただきました。島を丸ごと体験してもらうプログラムの開発や人材の育成に取り組み、より多くの人に島の良さを体験して貰える体制作りを目指します。(宮古島)

●島では、芸能文化・食文化等、沖縄本島とは違うことが多くおもしろいと思うが、受け入れの際の移動に問題があるので、運賃や便数の改善が必要(南大東島)

●常日頃少人数で学んでいる子ども達で、大人数の子どもたちと接することができて大変良かった。また一緒にレクや食事、歌を歌うことで、かなり自信もついたと思う。豊見城の子ども達にとっても、知らない西表島の自然・文化に触れることができ、一生の宝物ができたのでは…？(西表島)

●短期間で中身の濃い離島体験、5色テープを引き「さようなら～またおいでね～」ホストファミリーとの涙のお別れ波止場がすごく感動的です。(伊是名島)

●今年は急な準備でこちらも満足のいく島のPRができませんでした。来年はもっと島の良さを伝えてあげたいと思います。(渡嘉敷島)

●初めて体験交促進事業を引き受けて、迎えるまで色々不安もありました。でも引き受けて本当に良かったです。安和小学校の子ども達は本当に素晴らしい。先生からの1日目の出来事、夜遅くまでやりとげることで感心しました。また学校長・担任の先生方、厳しく優しく接していたのが印象に残っています。子ども達の成長が楽しみです。またしばらくして出来合いの色紙、写真、すごく感動し、私達家族の宝、思い出として大切にします。本当にありがとうございました。(多良間島)

●担当者のみなさまには、運営・実施にあたって、本村まで何度も足を運んで調整いただいた。それで、安全・安心に交流することができ、有難うございました。(渡名喜島)

●できるだけ多くの児童にこのすばらしい体験を！西表島以外の竹富町の離島への計画を(西表島)

～H24年度 参加者の声～

無事事業を終了し、いろいろな所から嬉しい変化の報告が出てきます。

H24年度に本島児童を受け入れた後の離島のみなさんの変化を集めてみました。

事業実施後の変化

島のお年寄りに笑顔が広がっています！！

島の約50%が65才以上という池間島で、民泊が盛り上がっています。本事業を通して民泊を始め、2年目にして、すでに35軒以上が簡易宿所免許を取得。狩俣地区と合わせて、のべ4000人以上を受け入れています。

その原動力はどこから来るのでしょうか？

ひとつは、子どもたちの受け入れにやり甲斐を感じていること。「また来るね！」という声に応えるためにも、自分たちは元気でいなければなりません。ふたつめは、お年寄りだけで受け入れるのは大変だからと、島を出て暮らしている「我が子」たちが戻ってくるようになったこと。孫達にお小遣いをあげられるようになった喜びもまた、やる気につながっています。

農協・漁協が元気になりました！！

伊是名島の漁業組合は本事業で子どもたちの受け入れを始めてから、漁業のみんなが笑顔が増え元気になったとの声があがっています。

今年度、ゼロからのスタートだった伊良部島の民泊では、33件の民家さんが民泊の免許(簡易宿泊業)取得を目指し、JA女性部の皆さんを中心に実現しました！

「子どもたちのためなら！」という島の皆様の温かい気持ちが、島の活性化へと形を変え始めています。

子どもたちにも良い影響が出ています！！

伊是名島で体験学習を行った那覇市立城東小学校5年生のK君は本島に戻ってからはほとんど食事を残すことがなくなったそうです。

伊良部島へ行った那覇市立高良小学校のA君は、那覇に帰った後、「スーパーで伊良部島から来た魚を見つけた！」と、漁協のFさんへ伊良部島産のラベルの付いた魚の写真を手紙と一緒に送ったそうです。

このように、島での体験学習は、子どもたちの意識・視点を変えるきっかけになっています、

子どもたちの変化を受けて、伊良部島では、＜漁→水揚げ→船で輸送＞まで一連の流れを実際に体験させた後、この魚がどう流通していくのかを想像させ説明するという「流通のしくみ」に着目した島の新しい体験学習をしようという提案が出ているそうです。

上記はほんの一例です。沖縄離島体験交流促進事業では、島の皆さんを主体とした受入れを実施することにより、様々な離島活性化と人材育成の種をまいております。



民泊先のお父さんとBBQ(伊良部島)



漁協の皆さんとハーリー体験(伊是名島)



島に響き渡る子どもたちの声(渡名喜島)



受け入れ直前に開からの激励(伊良部島)

～H25年度 参加者の声～

H25年度は、44校の児童生徒(102クラス)3,078名が16市町村に派遣されました。

H25年度に本事業を経験した本島児童、そして先生方の声を集めてみました。

参加した本島児童・生徒の声



黒糖作り体験(久米島)



サバニ体験(伊江島)



ドロまみれで綱引き(渡嘉敷島)



宿で三線のレッスン(石垣島)

●この3日間で思ったことは、この島の人のようなコミュニケーション能力を身につけたいということです。本島とはちがった離島の重要さがあり、将来、離島に関する仕事につきたいと思います。最後にこの研修に協力してくれた人々に感謝しています。

●この研修で、僕は物事の見方が変わりました。色々ありますが、一番は親の存在です。僕はあまり意識していませんでしたが島のお父さん、お母さんに話を聞いて、見方が変わりました。親にお礼を言いたいです。この研修に来て、良かったです。

●ウォークラリーをしていくうちに自分から積極的に島の人に話しかけていて、チームのみんなと協力してやっていました。このことで積極的に話すということを学びました。この離島体験で積極的に人に話して人のやさしさを学びました。

●島は人口が少なくて不便な島かと思っていましたが、違いました。人口は少ないけどみんなが助け合っているということがわかりました。島は本島と違ってコンビニも一つしかないし、ゲームセンターも無くてつまらないかと思っていましたが、自然に正面から向き合える素敵な場所だなと思いました。

参加した本島先生方の声

●子供達は大変充実した3日間を過ごすことができましたと思います。最終日の離村式では大多数の子供達が民家さんとの別れを悲しんで泣いており船からカラーテープを投げ船が出港した後も子供達と民家さんがテープでつながっていたことに感動しました。最後まで温かく良くしてくださって、子供達はとても幸せそうでした。帰りのバスにおいても子供達は夏休みに民家さんに絶対に会いに行く！と何度も言っており島の魅力を感じることができたと思います。

●島の皆さんが温かく迎えて下さり、本当に感謝します。3つの体験の中では、特にホームビジットが印象に残ったようです。島の方との交流が、子ども達の島のイメージをアップさせたようです。芋を植えた子が「冬に芋を掘りに行く」と約束したそうです。また島に足を運ぶ機会が得られたのは、良かったと思います。たくさんの方に助けられ、支えられた体験であり、子ども達と同様、感謝の気持ちでいっぱいです。関係者の皆様、本当にありがとうございました。海岸のゴミ拾いをした子ども達、ドライブで海を見た子ども達が、漂着ゴミや赤土について興味を示しています。環境について、どうしたらいいか、話し合っていこうと思っています。

●子供達は「もっといたかった」「離島の小学校に行きたい」など島の良さを十分かったと思います。中には「民家さんにわがままを言って後悔している」という子もいました。親元を離れ民家さんと共に過ごした日々が子供達を成長させてくれました。教室では学べないことをたくさん学んだと思います。本当にありがとうございました。